

第12期 松戸市緑推進委員会
第1回 委員会

1. 日時 令和4年10月24日(月) 10:00~12:00
2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)
3. 出席者
 - 緑推進委員
柳井重人・木下 剛・小谷幸司・高橋盛男・藤田博美・藤田 隆・上野義介・鎌田玲江
梶谷有三
 - 松戸市
齋藤博紀 (街づくり部審議監)
霜田正和 (公園緑地課課長補佐)
 - 兼事務局(みどりと花の課)
三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・岩田 昇(主査)
 - 松戸みどりと花の基金
青柳洋一 理事長
田辺久人 事務局長
 - 傍聴 0名

事務局より本委員会の成立について、委員14人中9名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第
 - 1 開会
 - 2 会長選出
 - 3 議事
 - 1) これまでの委員会の主な活動について
 - 2) 第12期テーマについて
 - 3) みどりのサロン部会の継続について
 - 4) その他
 - 4 連絡事項
 - 5 閉会

事務局

それでは、「第1回松戸市緑推進委員会」の開催をお願いいたします。

今回の委員会は、新型コロナウイルス感染症対策として、対面参加とオンラインでの参加により委員会を開催することといたしました。本来であれば、松戸市緑推進委員会の組織及び運営に関する規則に則り、委員会の運営の方法を定めるところですが、今回は事務局の判断で対面及びオンラインで委員会を開催することとしましたのでご理解ください。

本日の委員会は、平岡委員、石川委員、河合委員が所用のため欠席でございます。

現在、委員14名中、9名が出席しておりますので、松戸市緑推進委員会の組織及び運営に関する規則により会議は成立していることをご報告いたします。

参加方法の内訳ですが、対面参加8名、オンライン参加1名となっております。

また、委員会の議事概要及び出席者を記した議事要録につきましては、事務局で取りまとめ、後日、委員の皆様にご確認いただきますので、よろしくをお願いいたします。

議事録の公開は、情報公開担当室を通じて公開するとともに、松戸市のホームページにおいても公開

させていただきます。

ここで、議事に先立ち、本日出席しております、松戸市職員の紹介をさせていただきます。

なお、街づくり部長、公園緑地課長、21世紀の森と広場事務局長は本日出せない他の業務が入っておりますため、申し訳ございませんが、欠席とさせていただきます。

では、斎藤審議監からお願いいたします。

◇松戸市職員自己紹介

街づくり部：斎藤審議監

街づくり部審議監の斎藤です。

まず、第12期の委員会に委員としてお引き受けいただきましてありがとうございます。

前の委員会におきましては、みどりの基本計画策定にあたり、ご尽力いただいたところでございまして、みどりと共に松戸らしさを具現化するためのすばらしい計画にお導きいただきました。

本年からみどりの基本計画がスタートするところでございますけれども、たまたまのタイミングなのかもしれませんが、例えば松戸市の市施行80周年、千葉県の県市政150周年、松戸緑の市民憲章制定から20周年、さらには、都市公園の制度が出来てから150周年という節目の年にそのスタートにあたる。そういった意味で、みどりの推進ですとか、普及、啓発といった取り組みにいい機会なのかなと思っております、緑推進委員の皆様のご助言、お知恵をお借りしながら計画の実現を進めていきたいと思っております。これから2年間よろしくお願い申し上げます。

公園緑地課：霜田補佐

公園緑地課の霜田と申します。

本日課長の布施が、県の業務への対応がございまして欠席となりますので、代理となりますが本日はよろしくお願いいたします。

公益財団法人松戸みどりと花の基金：青柳理事長

松戸みどりと花の基金理事長の青柳と申します。

いつもお世話になっております。また引き続き、ご一緒させていただきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

公益財団法人松戸みどりと花の基金：田辺事務局長

みどりと花の基金事務局長の田辺です。引き続きよろしくお願いいたします。

みどりと花の課：三末課長

みどりと花の課、課長の三末です。みどりと花の課は緑推進委員会の事務局を務めさせていただいております。

今後2年間、皆様よろしくお願いいたします。

みどりと花の課：木原課長補佐

みどりと花の課、課長補佐の木原と申します。街路樹等、公園以外の松戸市で管理する緑の部分の管理を担当しています。今後、みどりの基本計画にあるように、管理とか今後の整備のガイドライン作成という業務がありますので、またご相談させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

みどりと花の課：木村

私がみどりと花の課の木村です。2年間よろしく願いいたします。

以上、職員を紹介させていただきました。

2、会長・会長代理の選出

事務局

まずは会長の選出をお願いします。会長は委員の互選により選出することとなっております。会長の選出につきまして、いかがいたしましょうか。

委員

委員の木下です。千葉大の内輪での推薦となりますが、第10期から本委員会の会長を務めている柳井委員を推薦したいと思います。

これまでの経験も去ることながら、松戸市内の様々な人脈や学識も余人をもって代えがたいものであると考え、柳井委員を会長に推薦したいと思います。

事務局

柳井委員に会長をお願いしたいとのご意見がございましたが、委員の皆さまいかがいたしましょうか。
— 異議なし —

事務局

「異議なし」とのことですので、会長は柳井先生にお願いさせていただきたいと思います。それでは、会長のお席をお願いいたします。

— 席替え —

事務局

それでは早速ですが、柳井会長、ごあいさつをお願いできますでしょうか。

会長

前期に引き続きまして、会長に選任、されました柳井でございます。

私は千葉大学の園芸学部で教育研究に携わっております。前期はみどりの基本計画の策定が、一番大きな仕事でございました。

先ほど、街路樹の話とか出ておりましたとおり、やらなければいけないことが沢山あるので、そういったものを計画の中に入れて、今後どういうふうに進めていくのか。

まだ計画を作ったところですので、計画を作ったら、実行するということが大事になるかと思えます。

みどりの基本計画、読み込んでいただいて、「これを実行していくんだ」ということについて、まずはご理解いただければと思っております。前回の20年前に策定された緑の基本計画の後で、その推進委員会がいろいろ提言しながら、何ができたかという、先ほど審議監の方からご説明ありましたけど、みどりの市民憲章というのは、まさに、この緑推進委員会の議論の中から、出てきたもので、その時もいろいろワークショップみたいなことをやりながら、いろいろ考えて、こちらの方で審議して、ご了解いただきました。そもそもこの緑推進委員会そのものが前回の緑の基本計画に基づいて設置されたものであります。それから「市の木、市の花、市の鳥」というのを、皆さんご存知でしょうか。それも緑推進委員会の方で実施されました。

それから大きなものは、松戸市はみどりの市民力ということで、ずっとこの20年間頑張ってきたわけですが、その市民力の基になるものは、この緑推進委員会で議論されて実施されています。例えば、里やまボランティア入門講座というのは、二期の緑推進委員会で企画されて実験的に実施され、それが定着して早20年になります。

その間に講座を卒業された方が、松戸の里やまの保全にご尽力されていることはご承知の通りでございます。

それから同じ時期に、花壇づくりネットワークの立ち上げも、この緑推進委員会の議論の中から、進みました。これもご承知の通り今は育苗圃で活動されている。

その他、みどりの行動会議で竹を配る活動だとか、この委員会を基にして出来た新しい動き、それがこの20年間松戸のみどりを支えてきたと言っても過言ではないと思いますので、このみどりの基本計画も20年というところとちょっと長いですがけれども、10年で区切って新しい動きをこの緑推進会から生み出していきたい。

そのスタートアップに当たる委員会ですので、ぜひ積極的にご発言いただいて活動いただければと思っております。

事務局にもいろいろとお世話、ご面倒おかけすると思えますし、先ほど紹介いただきました関係のある部署の方々にもお願いをしたいと思います。市民力というのは市民だけでやるわけではなく、その裏には行政の方々のサポートであったり、パートナーシップというものが重要となってきます。それから企業ももちろん重要になって、それぞれのお力添えをいただきながら、或いは自分たちが主体で活動をしながら、みどりの基本計画の実現に少しでもプラスになることができればと思えます。

引き続きよろしくお願ひしたいと思えます。

緑推進委員会の会長ということで、当然重要な責務ですしそれを全うしていくつもりなんですけれども、昨年も一番大事なときに、どうしても外せない予定が入って欠席になりました。申し訳ないですけども、そういった時に備えて会長代理を指名させていただければと思えます。

会長代理は、木下委員にお願いしたいと思えます。これまでも緑推進委員会を務めていただいていますし前期も会長代理をお願いしております。

他の行政ですとか、色々なところで会長とか委員をされていますし、私が安心してお任せできるというふうに思っております。いかがでしょうか。

— 承認 —

会長

それでは第12期の第1回緑推進委員会を開催します。

議事1) これまでの委員会の主な活動について

事務局

「資料5松戸市緑推進委員会の活動模式図」をご覧ください。こちらは、平成12年7月に第1期緑推進委員会が発足してからの活動の成果をまとめたものです。

右側上の「これまでの答申事項」をご覧ください。緑推進委員会では、

- ・「市の木、花、鳥」の制定について

- ・みどりの市民憲章の原案について
- ・みどりの基本計画について、
- ・21世紀の森と広場の魅力アップについて、
- ・公園再整備について等

様々な審議を行ってまいりました。そして、その答申を踏まえ、みどりの基本計画や市民憲章がつくられてまいりました。

また、みどりの市民憲章を実現するためのアクションプランを实践する「みどりの行動会議」を設置し、緑と花のフェスティバルへの参加、七夕プロジェクト、竹細工教室などみどりの普及啓発活動を行っております。

次に左側の各種部会の設置の欄をご覧ください。委員会の審議をさらに充実したものにするため、その時々の審議のテーマによって、これまで様々な部会が活動を行ってきました。

この中から二つほどご説明いたします。まず、一番上に書いてございます「樹林地保全部会」では、樹林地の保全について調査・検討をする中で、樹林地管理の担い手育成の必要性から「里やまボランティア入門講座」を提案し、平成15年より毎年実施してまいりました。また、その講座の修了生は里やま応援団を結成し、現在250～300名ほどの会員が、市内の18か所の樹林地で活動を行っています。平成24年からは、普及啓発活動として、ボランティアの方々が活動を行っている樹林地を市民に一般開放する、オープンフォレストというイベントを毎年春に開催しています。昨年は「オープンフォレストガイドブック」の編集など新たなものに取り組み、完成した「まつど森ずかん」は大変好評をいただいております。

次に、一番下に書いてございます、「みどりのサロン部会」です。これは新しいみどりの基本計画の策定に際し、第10期委員会で組織された部会です。第11期では「第2回松戸みどりのフォーラムの検討」「まちづくりキーパーソンとの学習会」「みらいフェスタへの参加」などを行ってまいりました。こちらの部会については、第12期委員会においても引き続き活動をお願いしたいと事務局では考えております。

では、次のページ「第11期松戸市緑推進委員会の開催概要」をご覧ください。

第11期委員会では、2年の任期期間中に11回の委員会が開催され、今年4月に公表したみどりの基本計画について主に審議していただきました。

次のページをご覧ください。第11期委員会では、「みどりの基本計画」のベースとなる考え方や骨格づくり、方針の検討等のために柳井会長、木下委員、小谷委員にご参加をお願いし「専門家会議」を7回開催しております。

次のページをご覧ください。みどりのサロン部会活動概要です。先ほど少しお話しした部会ですが、みどりのプラットフォームや市民フォーラム開催、みらいフェスタ参加などについての会議を11回、イベント参加と勉強会を各1回開催しました。部会のメンバーの皆様には大変精力的に活動していただきました。

以上が、委員会の主な活動です。この資料を持ちまして、ご説明に代えさせていただきますと思います。

会長

何か意見、質問はないか。

会長

資料5について、小委員会と部会は何が違うのかというと、緑推進委員会では最終的に、この期で作成した提言書を市長にお渡しします。それを元に進めてもらうというような提言をすることが、大きな課題になっていて、それを作る時に専門的な検討ですとか、この場ではなかなか文言まで詰められないので、専門的な検討とか或いは文言まで含めて小委員会を作って検討することが多いです。この小委員会は、基本的に緑推進委員会の委員で、構成されるものになります。

それに対して、部会と称しているものは、特定の「例えば提言を必ず書かなければならない」それに対してどうするかというアプローチを、その部会の中で色々な大きな課題に対して、部会を設置して部会の中で検討してもらっています。

これは松戸の緑推進委員会の部会の特徴ですが、検討だけではなく、実践を伴う社会実験のようなことをしています。実践を伴うということを大切にしています。

里やまボランティア入門講座も、部会で実験的に実践したものを次のフェーズでは、それを動かしていったものが20年経ったものになりますし、そのようにちょっと実験的に「実践してみる」「活動してみる」と、そこからまたチェックして見直しをして、実際の施策として動かしているというようなものになります。

したがって、必ずこれに対して答えを出すということではなく、大きな課題に対して検討して何かできそうなことがないということを実践して、そこから展開していく。実際に里やま活動や花壇づくりとかは、そういう中で20年間の活動になっています。そのようなことを部会の方で考えています。

それからこの部会のメンバーには、ここの委員会の委員でなくてもなれます。

緑推進委員会で「こういう方をメンバーにしたいです。」という話はあるが、ここのメンバーだけでは、当然できないこともございますし、「こういうプロジェクトだったらこういう方に手伝っていただきたい」というのも出てきますので、その時は、緑推進委員会の委員ということにはこだわりませんし、市民でなくてもなれます。このように何も縛りはない中で、助言いただいたり支援していただいたり、ということ期待してここの委員以外の方も、メンバーとして構成できるという形を取っています。

緑推進委員会のOBとかOGとかは身近なところですし、ご協力いただける方が近辺にいらっしゃれば、そういう方もメンバーに入っていただける。ここが小委員会と部会を違いとなっています。

議事2) 第12期テーマについて

会長

それでは議事2の「第12期テーマについて」に移ります。

事務局より提案と説明をお願いします。

事務局

緑推進委員会のテーマについて事務局より提案させていただきます。まず、最初に前委員会からの引継ぎ事項がございます。新任の委員の方もいらっしゃいますので、説明させていただきます。前委員会では、今年4月に公表した「みどりの基本計画」の実現に向け、公表に先駆け、「みどりのプラットフォーム」や「みどりのシティプロモーション」について、サロン部会の議論を委員会の議論にフィードバックさせていただきました。

その中で、第12期への引継ぐ3つの課題が示されています。資料6をご覧ください。

課題について、簡単にご紹介させていただきます。

一つ目が「みどりの基本計画の理解促進について」です。

皆さんご承知の通り、基本計画は150ページあり、みどりに関する施策など、あらゆる「みどり」が詰まっていますので、ボリュームが多く、読み進めるのに時間がかかるものです。もっと気楽に触れることの出来るような工夫が課題の一つとして挙げられています。

二つ目が「みどりのシティープロモーション」です。

いわゆる、松戸のみどりの認知度向上やブランド力を上げるための活動が重要であることです。生活のあらゆるところ、身近なところに緑がございますが、残念ながら緑は身近に在り過ぎて、その恩恵や効用を考えたり、感じたりすることが、生活の中に埋もれ、気づいていない人がとても多くいると思われまます。基本計画に掲げる、みどりのまちづくりを推進するためには、埋もれてしまっている緑の恩恵や効力を掘り起こし、「目に見える」「実感出来るようにする」ことが重要であり、みどりの認知度を上げるための仕組みが必要と考えられます。

三つ目が「みどりのプラットフォームの実現に向けた試行的取組」です。

みどりのプラットフォームについては、新しい概念であるため現時点においては、人それぞれ、その捉え方が様々で理解が難しいものであると思っております。議論については前々回の第10期から緑推進委員会とサロン部会で盛んに議論されてきましたが、第11期緑推進委員会からは、実際にプラットフォームの仕組みを動かし、実践の中で情報を整理し組み立てて行くことが必要であると提言を頂いております。

以上のことを踏まえ、今期委員会のテーマ設定について柳井会長や高橋委員にご相談させて頂きました。

資料7をご覧ください。テーマは、「(仮称) みどりの文化祭」。その企画と実施及び取組(プロジェクト)に対する目標設定、要件の整理とルールを設定を今期のテーマと考えております。

正式な名称については、今後の委員会で決定したいと考えていますので、(仮称)とさせていただきます。

それでは「(仮称) みどりの文化祭」についてご説明します。

みどりの文化祭とは、みどりのプラットフォーム構築するための実践的な仕組み作りをイメージしたものです。モデルは、屋外で「みどり」と、「みどり以外」の接点を作るためのイベントや、みどりの市民フォーラムの開催をイメージしています。イメージ図の下に、イメージ写真を載せていますが、みどりのフォーラムを中心に各団体のプロジェクトを実施し、お互いに交流して行くイメージです。

新しい委員の方もいらっしゃいますので、みどりのフォーラムについて説明させていただきます。

みどりのフォーラムは令和元年6月に、みどりを舞台に活躍する色々な団体が初めて一堂に集まって、お互いの活動や問題点について、意見交換などを行うことを目的として開催しました。千葉大学や聖徳大学をはじめ、里やま保全団体、花壇づくり団体、公園管理活動団体、みどりの利活用団体など26団体が参加しました。これまでは、他の団体がどのような活動を行っているか、お互いに知ることがありませんでしたが、このフォーラムでお互いの活動を知ることが出来ました。

第2回目のみどりの市民フォーラムは、1回目のフォーラムを発展させ、子育て団体とみどりの団体がコラボした例や、目的が異なる団体がコラボすることで、新しいアイデアが生まれることなどを軸に屋外での開催で計画していましたが、コロナウイルス感染症拡大のため、やむを得ず中止した経緯がございます。

今回のテーマは、みどりの市民フォーラムを中心に、松戸市にある様々な資源、団体、取組、プロジェクトを集め、各々がプロジェクトを開催することでお互いに引き合い、その後イノベーションや新しい何か生まれることを期待しております。また、生まれたものを確認することもプラットフォームの構築の検証になるのではないかと考えています。

また、開催場所について屋外としましたのは、天候が良ければ屋内より屋外の方がみどりに親しみやすく、今の状況に合っているのではないかと考えたことや、今年度より千葉大学園芸学部3年間の予定で、金ヶ作育苗圃とその周辺を含め、みどりの拠点としての研究をお願いしていること、松戸市には既に緑のフィールドで活躍している様々な団体やプロジェクトあることから、

緑のフィールドと何かを結びつけるために、屋外での開催の方が相応しいと考えたからです。開催場所についても今後の議論の対象と考えています。具体的な開催地場所や屋外・屋内についても、ご審議を賜りたいと考えています。

また、SDGsにより緑や環境問題に取り組もうと計画している企業からも、問い合わせなどがありますので、今後は企業など様々なジャンルのものも取り込みたいと考えています。

次に取組（プロジェクト）に対する目標設定、要件の整理とルールの設定についてご説明いたします。

文化祭の企画・実施について、どのように進めるか考えた際、過去の議論からプラットフォームの構築は、1回や2回のプロジェクトの開催では、最終的な目標まで辿り着くには難しいと議論されていることや、目的に至るためには確固たるストーリーが必要で、途中で様々な段階が必要であり、段階ごとの教訓や反省が生まれるとの意見が出ています。それを踏まえ、この文化祭は1回で完結するものではなく、ストーリーと各段階における目的・役割を設定する必要があると考えました。目標・役割を設定するために、要件の整理を行うことと、目標設定の方針やルールについて、合わせて議論をお願いしたいと考えています。

以上が、事務局からの提案事項です。

会長

何か意見、質問はないか。

委員

事務局からの提案を今期のテーマとするか、ということからの議論でいいでしょうか。

会長

そこから始めましょう。

会長

みどりの文化祭という言い方は別にして、資料6にあります12期に引き継ぎたいものとして、3項目が11期の委員会でやり残したことで12期に託したものでございます。みどりの文化祭というのは、その一つの方法が形になったものである。これについてご意見や質問をいただきたい。大きな方向性では、この3項目に取り組むか、どれかにするのか、もっと別の課題があり得るのか、そのあたりでまずはご意見をいただければと思います。

委員

この三項については整理して優先順位を決めた方がいいのではないかと思います。そのためにはこの3項目についてイメージの共有を図りたいと思います。

理解促進として基本計画をどうやって市民やその周辺にアプローチしていくかは、とても大事なことだと思う、その上でシティプロモーションに絡めたり、SDGsに絡めたりする、そのパフォーマンスの一つとして文化祭等のイベントに繋がるのではないかと考えています。

したがって、基本計画の理解が一丁目一番地であり、まずは具体の手法とかを、「どういったこと」を「どういうふうにやっていくのか」からの議論がいいと思います。

会長

はい、ありがとうございます。

委員

今の発言に関連しますが、前期の部会でも基本計画をどうするか議論がありました。

従来は、この分厚い基本計画に縮小版を作ったのですが、抜き刷りをしてまとめたようなもので、一般の方にはなじみにくいような内容であったため、もうちょっと伝わりやすいものにした方がいいのではないかと、例えば子供向けの絵本にしたり、プロモーションとも関係するので動画を作製したり、今回の基本計画にたくさんある絵を使えないか、そのような議論がありました。

会長

はい、ありがとうございます。他にないか。

委員

この資料6、資料7の関係性がですが、①から③を実現する方法として資料7のみどりの文化祭がある。資料6のオリジナルプログラムの一つがみどりの文化祭という関係性でいいか。

会長

事務局お願いします。

事務局

私が考えたのは、課題を1から順番に解決していこうと思ったときに、こういった取り組みの中に答えがあるのではないかと考えたため、このような提案をいたしました。

委員

わかりました。ありがとうございます。

先ほども意見ありましたが、私も戦略性を持って、どう展開していくか、極端に言えば2カ年のロードマップを作成して実行していかないと進んでいかないのではないかと。

最初は資料6の①に関連させて、みどりの基本計画のそれぞれ章や基本方針ごとについて、関係のある人を集めてワークショップをして、そこから課題とか方向性を出して具体的なプロジェクトに反映させるような方法もいいと思いました。

会長

はい、ありがとうございます。他にないか。

会長

資料7は、プラットフォームができ上がった頃のイメージかなと考えている。

先ほども発言ありましたが、みどりの市民フォーラムというものがかつて行われました。千葉大学の100周年記念ホールでご挨拶もしましたし、学生もたくさん参加してくれて有意義な会だったと思います。

ロードマップとか、この①から③までの段階性を考えたときには、多分、この市民フォーラムみたいなところが一番最初の出発点になるのかなと今日のお話を伺っていて思いました。

そこからみどりの基本計画の普及ですが、「普及」と言うと堅いので、何かイベントしながらとか、何か催し物しながらとか、ちょっとした勉強会をしながら普及していく、そのようなことを考えていくのかなというふうに思います。

ですので、資料7の文化祭というのは、イベントとしての文化祭なのか、見せ方としての文化祭なのか、まだはっきりしない部分はありますが、いろんなプロジェクトを生み出していたり、つながろうってということですが、「ロードマップ」を考えると市民フォーラム、これは去年やろうと思ったのですが開催できなかったということがあるので、そこからかなと個人的に考えています。

会長

他にないか。

委員

みどりの市民フォーラムに私も参加させていただきました。自分たちの周りの方の活動だけではなく、異種の活動を知ることが出来たということについて、すごく印象に残っていますし、それに参加することによって異種の活動をしている人にも、お声をかけていきやすいし広がりがあると思います。

ですので、先ほど発言ありましたように、せつかく完成した基本計画を、子供達から高齢者まで、

PRできる方法を考えていくのは、いいのではないかと思います。

会長

他にないか。

委員

資料7に企業の取り組みとありますが、松戸に本社を置く結構大きい会社から、みどりと花の課とみどりネットに問い合わせがきました。「松戸の緑の活動で企業の取り組めることはないか」との問いに対して、「何でもできます」と答えましたが、その時に、やっぱりプログラムが欲しいなと思いました。どういうアセットがあって、売りこめるのか、というのがこの中だと、今進んでいるものと、これからというものが一緒になってしまっている、SDGsにからめた場の資源とか、活動の資源とかの売りこめるものとしてプログラムやPRツールを考えていくのもいいと思いました。

委員

たまたま千葉里山センターに出勤していたときに、とある鉄鋼会社から連絡があり「緑に関することが私たちもできないか」という問い合わせであった。

里山センターの枠の中で一緒に活動して「SDGsに関連する活動を、企業も始めていますよ」と言えるようなことをやりたい。というように、企業はこれから緑に関連することを手がけていきたいという希望があるというのが分かりました。他にもガスの会社からの話しもあることから、SDGsに関連する動きは企業としても全国的な流れのように思う。

それと私たちの松戸のみどりの活動とを、どうやって繋げていくのか、この2年間の中で小谷委員の発言にあったような結びつけ方を実行していくと、緑推進委員会の場での議論も発展していくと思いました。

会長

他にないか。

委員

子ども政策課に「こどものいる暮らし」という冊子があるが、これは松戸の中で子供に関係した活動はどのようなものか、親子の活動はどのようなものか、又その繋がりはどのようなものかを紹介している。分かりやすく纏まっているので、みどりの基本計画の概要版を作るにあたって参考になると思う。また、千葉大の常盤平団地に関する研究を纏めた冊子についても、松戸のみどりをどういう形で市民の皆さんに知っていただくかビジュアル的なところを参考にするといいと思う。

会長

他にないか。

会長

松戸市の広報にも出ていましたが、SDGsについて松戸は、内閣府のモデル都市に選ばれたり、モデル事業も、常盤平団地で採択されています。

松戸市だけではなく、みんなSDGs力を入れているような状況である。それからみどりの市民力については、これまでずっと活動してきたので個別には松戸市の企業の方にも色々サポートしていただいていると思います。ですが、今出たような何かやりたいという話しが出てきた時にそれに対しての受け皿がないということだと思います。

今の話しにはいくつかポイントがあるかと思います。みどりの基本計画の理解促進に代表されるように、みどりの人達の中ではみんな頑張っているけど、松戸市民から見るとみどりっていうのがメジャーな分野なのか問われると、ちょっと心もとないところがあるかなと思います。

みどりの基本計画の中に、松戸市のみどりの施策について、どのくらい認知度があるというデータがあったが、それを見てもわかるように、みどりが好きな人はみどりに対する意識も高い。だけど一般的に見たときにどうなのかと。これはいつも私の心の中に付きまとっています。みどりに興味が出たのを契機に、普及、啓発に寄与する試みが必要だろうというのが1点。

2点目は、新しいライフスタイル、みどりに関するライフスタイルとか実践っていうことを、新しいみどりの基本計画ではワンランク上を目指すとして強調しています。コロナについても基本計画の中ではwithコロナとして出てきますし、暮らしの中でのみどりの付き合い方をどう普及していくかだと思う。例えば、以前もありましたし、11月にもあると思いますが、「どこでもシアター」という21世紀の森と広場でやるイベントがあります。松戸市民は21世紀の森と広場で年に1、2回あのようなコンサートを楽しむことができる。あれについても全く新しい試みとして生まれたものが育ってきた。グッドデザイン賞も受賞すると聞いている。つまり、新しい暮らしとの繋がりでは何か実験的な、実践的な取り組みができないか、これが2点目。

3点目は、他のテーマや他の主体等、他の分野と横断的な取り組みができないかということです。先ほど「子供のいる暮らし」の発言がありましたが、それは他の子育てという他の分野との連携です。例えば、「遊びの森in囲い山」というのは、子育て団体の方々とパートナーシップで、行うようになって3回目のイベントである。緑好きな人たちにみどりだけやるのではなくて、子育て分野等、周りにファンを増やしていかなければならないし、みどりの中で暮らす豊かさっていうのを感じてもらうことが重要だと思う。そういった意味では、子育てというテーマだったり、まちづくりというテーマだったり、前期のサロン部会ではまちづくりの人たちに話しを聞いたりしていた。そういう他の分野であったり、企業のような他の主体の人たちとどう関わるかが重要なポイントだと思います。

また、先ほど発言にあった「ロードマップ」については、ロードマップを作って実行していくのはとても大事なことですけど、このロードマップで進んでいくプロセスも含めて、みどりづくりに寄与していけないか。最初のプロセスの中でフォーラムがあるとすれば、それを例えば公開して、みんなが参加できる形にするとか、全プロセスを組み立てて最後に「はい、これができますよ」ではなくて、そのプロセスにも松戸のみどりづくり、ファンづくりにプラスになるようなことが考えられないかと考えています。

前期からの議論、サロン部会での議論、それから今日の議論を聞いていると、そういったことが、これから何年かのことを考えたときに、何か重要なポイントになると思います。

会長

他にないか。

委員

新しい基本計画を読んで私なりに感じたのが、今の先生のお話しあった、みどりとのかき合い方や啓発の部分であった。特に年代によって意識が違って、いわゆる子育て世代と高齢者は、日頃公園で接するという中でみどりを見て感じています。ですが、働いている方は東京勤務者が多いだろうと考えると、そのような方々については、あまり普段は緑に対して接する機会がない。それで言うと、緑被率、面積比率であるとか、そういった数字が出てきますが、勤め人の方々とか、日常生活であまり緑に接しない方にとっては、緑視率、歩いてる中で、緑が多いとか少ないといったことの視点も必要であり、世代を超えてみどりが豊かであることが大事だと思います。実際にデータを

見るとみどりの役割について実感度は低く期待度は高いという言葉の通り、期待を高めるためにはどうしたらいいかを考えることが必要だと感じた。

会長

世代については色々ありまして、市民活動するときも若い人に入ってもらいたい一方で、いや若い人たちは忙しいだろうという話があったりする。その世代のとらえ方も色々あるのかなと思います。緑というのは多世代を繋ぐ一つのきっかけにもなり得るような場面だと思いますし、東京に通勤している人とか、これから住まいを買う人が、どれだけ松戸に愛着を感じてもらおうか、住み続けたいと思うか、ということにも繋がっているととても重要なご指摘だと思います。

委員

会長から「遊びの森in囲い山」の紹介がありましたけれども、これは第3回なんですけど、実はこれの前段階があります。前段階というのは、事務局をやってるNPO法人子どもとまつどというところが、松戸の里やま応援団とタイアップして、松戸の森を使って年に5回の体験学習をするというプログラムを実施していたわけなので、5年ぐらい前から元になる。その子どもとまつどが、子育て支援なので割と若い子育て中のお母さん達と非常に多様な繋がりがあるので、その人達を引っ張ってきてくれて「遊びの森ができないか」ということでこれが実現しました。松戸の里やま応援団はリタイアした人が多い団体がなので、高齢化で大変な問題を抱えていますが、そこへ全く違うジャンルの人が入ると、その人たちが人を呼び込んで、という形が出てきて、そこでまたネットワーク、繋がりが起こっていきます。里やま保全活動は実際に体を動かすものなので、年齢によって限界が出てきますが、そういう繋がりができてくると、今度は逆に成長する活動になるかなと、一つのモデルになると思います。

会長

議論は尽きないですが、いかがでしょう。おおよそ12期テーマについて、この11期から12期に引き継ぐ事項をベースにしながら、多少今みたいな離れることもあると思いますが、普及啓発とかプロモーションとか、他種との連携とか、他分野との連携とか、多世代の交流とかを、今の松戸の市民活動に足りないこと等を検討していくことでよろしいですか。

概ねこの方向で、検討さしていただければ、また、どうぞ。

委員

キーワードとして入れていただきたいものがあります。

多世代との話しもあって、子育て世代は重要なターゲットとなるが、今あらゆる産業ではZ世代のマーケティングをしています。全く今までとは違う価値観と行動をする10代後半から20代前半くらいの世代であるが、この世代がいずれZ世代ではなくなるが、この人たちの価値観の中で次のマーケットが作られることを考えるとZ世代を取り込むプロモーションの仕方は必要だと思う。

交流についてですが、都市農村交流や交流人口を増やそうというものが観光政策であったが、今は関係人口という考えがトレンドになっている。ボランティアでもなく働くのでもなく移住するわけでもない価値観と体験をベースにして作られる新しいコミュニティである。農業だけじゃなく、地方創生、地域の活性化の分野でも言われるようになってきている。「みどりをテーマにした関係人口作り」というのもキーワードとして入れるといいと思う。

会長

ありがとうございます。とても重要なご指摘だと思います。

Z世代のことで言うと、これは私の研究室で学生たちがやってくれたものをお手元にお配りしてい

ますが、まさにZ世代ですが園芸学部なので、やっぱりみどりが好きで一般的なZ世代よりは完全に緑よりのものになっています。当然緑で頑張っていくぞって学生なので、そういうとこなんですね。だから、小谷委員のイメージするZ世代とは違って、我々の方にとっても親和性が高いZ世代なんですけど、大学生っていうこと大事ですし、SDGsのモデル事業でもZ世代で常盤平と言ってます。それから関係人口づくりも賛成できる考え方です。担い手についてこれまで言ってきたと思いますが、多分これから担い方が大事になるかなと思って、関係人口の話でいうと、全部同じレベルで、今まではガッツリ担う形だったが、これからはライトな担い方もあれば、いろんな担い方があると思います。まさに「まつどの森ずかん」なんかは例になる。Z世代ではないと思いますが、若い子育てされる方が参加されて、森の活動はまだ本格的には、やられてない方ですけど、冊子を作るっていうか、決まった時間に必ず森の作業をするのではなく、そういう関わり方があるのだと思います。オープンフォレストのツアーで、お金いただいてはどうかと考えていますが、そういう担い方もあるだろうし、まさに関係人口とか担い方というのも重要なキーワードかなと思います。

重要なご指摘ありがとうございます。

委員

みどりのシティプロモーション、それから、みどりの基本計画の理解促進に関わる話だと思います。毎期の緑推進委員会が、その期の活動を終えたときに活動報告書を作られて、市長に渡すんです。市長に渡すのは大事なことですが、あれは公開されてるのでしょうか。

事務局

ホームページと行政資料センターで公開しています。

委員

あのままの形だと、なかなか市民の皆さんには、はっきりするところが少ないのかなと。個別のすばらしい活動をいろいろやられて、いろんな冊子とかもできて、その全体を市民の皆さんに見せる。それがみどりのシティプロモーションそのものになっていくのかなと、なので活動報告書をもう少しわかりやすく全体像を市民に見せることがみどりのシティプロモーションに繋がると思う。そういったメディアの見せ方もできるといいと思う。

委員

松戸のみどりの活動のここがすごいというのをまとめただけでPRツールになると思う。

委員

みどりの基本計画の森ずかん版のような絵本版みたいなもの。

会長

これもそうですね、あれだけ汗かいてやったものがホームページに公開されてるとはいえ、よっぽどの人でないと見ないです。例えば、市民フォーラムみたいな中で、そういうコーナーを設けるとか、他の自治体でみどり白書みたいなものはできないか提案したことあるけど、「この1、2年のみどりはこんなだった」「こんなことがポイントだった」ですとか、そういうのがあってもいいのかなと思います。これは今のみどりの基本計画をPRするのとは別に、活動のアウトプットをPRすることに繋がる。

第12期のテーマっていうことで、いくつかキーワードが提示されたと思います、少し再整理して、テーマ設定したいと思いますので、よろしくをお願いします。

議事3) みどりのサロン部会の継続について

会長

それでは議事3の「みどりのサロン部会の継続について」に移ります。

事務局より説明をお願いします。

事務局

事務局から少し説明させていただきます。

みどりのサロン部会はみどりの市民力を持続可能なものとするための形を模索するため、第10期の緑推進委員会の有志によって立上げられたものになります。

今までの活動として「市民活動団体へのアンケート調査」「みどりの市民フォーラムについての検討」「みどりのキーパーソンとの学習会」「こどもみらいフェスタへの参加」等、実際に行動してみどりの市民力についての展開を模索しています。

新しい委員の皆様には、ぜひサロン部会に参加していただいて、今後のみどりを一緒に作っていただきたいと思っております。

サロン部会前座長の高橋委員より今後の活動について説明をお願いしたいと思います。

委員

先ほどの説明にあったように、簡単に言うと部活動みたいな場です。

必要があると外部の人を呼び込んできたり、自由に議論をしています。二期続けていると議論も多様化していくので、議論に比例してやるが増えている状態です。新型コロナの影響で部会を開けなかったこともあり、議論については未整理な部分あります。みどりの基本計画の108ページにある図を「みんなで議論しながら作りました」ので「その次どうしましょう」を議論して試行していますが、これについて、どこから取りかかるかというところが今の段階です。

1点目として、すでに取り組んできた物とか繋がり等のアセットがあるので、それをベースに去年でできなかったみどりのフォーラムについて、「どのようなプロセスで」「どのような繋がりで」というようなことを検討していく。

2点目として、これまで学習会を何回か開いていますが、松戸市では樹林地について、里やま活動で18のボランティア活動が行われている。それから、花壇ネットワークもあって、花壇づくり団体が200ぐらいあります。ところが、一般の方にはほとんど知られていない状態です。これについて、ただこんなにありますよと言うだけでは駄目なので、繋がりをつくりながら知ってもらう方策を立てたいと考えています。緑とまちをつなぐ、というキーワードに沿って勉強会を開いています。

講師には「まちづくりのコーディネーター」「まちづくりに関わるコンサル」、「松戸の中でもみどりと関係しそうな面白いことをしている人」をお願いしています。このようなことを今まで部会でやっていましたが、公開型にして一般の方も参加できるようにしていくことも前期の部会で検討していました。

会長

ありがとうございました。今日決めるのは、第12期でも部会をやるかということです。

第12期のテーマをどのような方向性でやるかは、ここで話し合いますが、一方で、具体的な話として「みどりの基本計画をどうするか」「みどりの市民フォーラムをどうするか」との話が出ていることを踏まえて、第12期も部会を構成したいと思えますけども、いかがでしょうか。

会長

第12期も部会活動をするということで、よろしいですか。

— 承認 —

会長

ありがとうございました。

第12期もサロン部会の活動を継続していくということにしたいと思います。今期のテーマとの関連、みどりの基本計画は20年先を見据えているが、実際はもうちょっと短い期間でのリアルのやりとりになると思う。そこも含めて進めていくことにさせていただきたいと思います。

部会のメンバーについては、現緑推進委員と前期までの活動メンバーでの構成となると思いますが、案内については事務局よりお願いします。

議事4) その他

会長

それでは議事4の「その他」に移ります。

何かないか。

連絡事項

委員

生涯学習大学講座について

松戸の緑について講義をすることになりました。8月12日締切なので過ぎてているが、現在追加募集中である。プログラム全ての受講ではなく、松戸のみどりについてのみの受講も可能としてもらっていてオンライン参加も可能なので、予定の合う方はぜひ参加して下さい。講義内容は「松戸のみどりの現状について」と「松戸の里やま活動の生い立ちについて」となっています。

公園緑地課

21世紀の森と広場のイベントについて

モリヒロフェスタ 11月5日、6日 午前10時～午後3時

広大な自然を生かした食を主体にした複合型のイベントです。キッチンカー20台、野外コンサート、子供が楽しめるワークショップの開催をします。

緑と花の基金

第30回松戸みどりと花のコンクールについて

授賞式を11月10日に市民サロンで行います。今年は30回目という節目なので、記念特別賞も用意しております。オープンな場での開催はコロナの関係で見送っておりますが、昨年、今年と連続で過去最高の応募点数となっています。

みどりと花の課

今後の緑推進委員会の開催について

第2回 12月23日 午後2時～
第3回 2月中旬～3月で調整中

イベントについて

あそびの森in囲い山 11月13日 囲い山の森
大農業祭り 11月23日 21世紀の森と広場

会長

戸定祭 11月5日、6日 千葉大園芸学部のお祭りで研究展示もあります。6日13時から「自然観察スケッチ会」として基本計画の表紙の作者を講師に招いています。

みどりと花の課

新しい委員の方に緑の見学会を11月中に検討していますので、是非ご参加下さい。

柳井会長

これを以て第1回松戸市緑推進委員会を終了する。